

農村コミュニティ強化アクションプラン 第2回検討会議のまとめ（確認）

【論点】 農村コミュニティ強化のために求められる地域組織の目指すべき形態はどのようなものか？

- 地域活動を担う1階部分、経済活動を担う2階部分という2階建ての構造という方向性に異論はない
- 1階部分は自治組織が中心となるが、従来の組織を寄せ集め、形を変えるだけでは、長期スパンで見れば同じ問題を抱えたままになりかねない
- 2階部分については、**ビジネスとして成立するか**ということを考える必要がある
- 地域全体で意識・危機感を共有し、地域の方に当事者意識や関心を持ってもらうことがポイント
- 女性・若者・外部人材の参加**など、地域内に新しい波風を起こし、新しい出会いを創出することによって、地域活動を発展させる必要がある
- コミュニティの範囲について、これまで**外側に位置付けられていたボランティア等も含める**など、広く捉えても良い
- 組織に従来とは異なるメンバーが入ると、改めて地域を見たり、地域維持の思考を持つきっかけになり、それが地域活動の充実に繋がる

【論点】 そのような組織に対し、行政（府・市町村）としてどのような支援が必要か？

- 地域活動を経済活動につなげるための**仕掛けやきっかけづくりの支援が必要**

【論点】 マンパワー不足を補完する地域外人材を安定的に確保する仕組みはどのようなものがよいか？

- 地域・行政だけでなく、NPOや都市住民グループ等の**新たな外部支援主体を取り込む**仕組み
- 地域のコーディネーター役が、人間関係の構築や外部人材の活用など、**地域と外部人材をつなぐ**仕組み
- 地域の魅力や作業に付随する**価値を創出し**、ボランティア**自らの意思**で来てもらう仕組み